



絵:祝追正義(美術)

かじき木だより

ダブルバインドということ

校長 黒木 浩一



ダブルバインドの状況に子どもを置くことになる。少しだけ引用してみます。

「いわゆる『友だち親子』化が進んでいる。(中略)親は子どもに「やさしい関係」を結んでいたり、この「やさしい」関係には、ときに子どもたちの健やかな心の発達を阻む異なったものである。ダブルバインド」の闇である。



恩師
PTA会長 濱崎 泰弘

皆さん、「こんなにちは。若者にはそれぞれ「恩師」という存在があり、様々な影響を受けて成長していくものと考えていました。私は昭和五十六年の本校卒業であり、その時の二年、三年時の担任であった物理の榎田先生が私の恩師です。今日は榎田先生の話を少しあたまと思いま

ダブルバインド(二重拘束)とは、相矛盾したメッセージを同時に指令するコミュニケーションのことである。たとえば、「自由にあなたの好きなやりなさい」と言う一方で、「私を安心させること」「満足させること」など、物わかりが悪いことこのうえなだけ引用してみます。

「友だち親子」化が進んでいる。それは許されない。「親の言うとおりにやりなさい」とは言わせていないし、表面的には自分が許されているように思えられる。このようなダブルバインド状態が高じると、親に直接の反抗もできず、子どもは逃げ道がないなり、混乱して引きこもるか爆発するか、いずれにしても前に進めなくなる。一見、物わからぬいい「やさしい」親子関係が、このダブルバインド状態をはらんでいるかも知れない。

せん、恩師というのはそういうものだと想います。昨年先生は亡くなられました。お墓参りの際、先生のお部屋も見させて頂きましたが、趣味とされていたパソコン、カメラのほかにラジコン飛行機、ラジコンヘリ、が所せましと並べられておりました。しかし、私が驚いたのは本棚の本格的な文学全集でした。哲学書、ヨーロッパ古典などを幅広く読まれていたようですね。典型的な理系人間だつたと思います。今となつては先生の姿勢に「武士道」を感じます。

私個人の思い出は色々ありますが、高校時代は未熟で子供っぽかつた私を庇つてくださっていたのが最後の思い出となっています。大人になってからも付き合いは細々とあり、人生の大好きな方針を決める際に先生の意見を伺った時、「お前はそいでよか」と言われて安心したのが最後の思い出となっています。大人といわれる年齢になり先生と同じく話してみたかった気もしますがその機会はもはやありません。しかし、先生の教えは私のシナブスに刻まれていて、直接話す機会が失われても存在は変わりませ

第27号
2012.3.1
加治木高等学校
PTA発行

〒899-5214
鹿児島県姶良市加治木町
仮屋町211番地

校長・PTA会長あいさつ……………P1
生徒指導・保健・進路指導の各部より……P2
学校行事の感想……………P3
一日遠行・卒業に寄せてほか……………P4・5
卒業生へはげましの言葉……………P6
部活動大会入賞記録……………P6

皆さんの中には興味の方いらっしゃるのでは、個性的な授業をされる先生でした。その授業はしばしば高校受験の内容とは異なるレベルの話になり、それは確かに難解ではあります。しかし、先生の教えは私のシナブスに刻まれていて、同じような感覚を持つことでしょう。

東日本大震災を考える

生徒指導部 富岡 剛

先日、全国高等学校体育連盟研究大会で、宮城県の発表を拝聴しました。東日本大震災に被災し、甚大な被害に見舞われながらも、皆が一丸となって復興へと立ち上がり、高校生がそのような状況でも邁進する様子に強い賛美を受けました。その発表の中で、宮城県南三陸町の志津川高等学校から来られた、遠藤先生の話をお聞きしました。

平成二十三年三月十一日の午後、先生はバスケットボール部の指導のため体育馆で生徒と一緒に活動されているとき、大震災に被災されました。激震の後、大津波が町を飲み込んでいきました。志津川高校は高台にあつたため、被害は免れましたが、学校の麓まで津波は襲ってきましたといいます。津波が引くと、職員と生徒は「津波の第二波が来るかもしれない……」という恐怖感の中、救助へ向かい、生きているのか、死んでいるのか、分からぬ泥だらけの人々を背負い、学校へ何度も運び続けたそうです。

学校は避難所となり、生徒たちは、今日生きることに精いっぱいの生活を過ごしました。家庭の半分は、仮設住家が建てられ、志津川高校は、他の二つの高校に分散して教育活動を行つたそうです。多くの犠牲者が出て中、生徒たちは学習をするべきなのか、部活動などやつている場合かと、とても悩んだといいます。

現在志津川高校は、生徒たちが戻り、再び活動しています。全国から寄せられた支援に感謝し、学習できることのありがたさ、部活動が出来る喜びをかみしみながら毎日を過ごしていました。

先日、遠藤先生からメールをいただきました。「現在の高校生の様子は、元気に生活しております。震災後は下を向いていましたが、全国からの御支援をいただき、少しずつ前を向いて生活できるようになります。多くの生徒が仮設住宅での生活で疲れも溜まっていると思いますが、勉強、部活動と、目標に向けて頑張っています。これまで受けた多くの御支援に対し、

災後は下を向いていましたが、全国からの御支援をいただき、少しずつ前を向いて生活できるようになります。多くの生徒が仮設住宅での生活で疲れも溜まっていると思いますが、勉強、部活動と、目標に向けて頑張っています。これまで受けた多くの御支援に対し、

満足なお返しができない状況にあります。今我々でできることは「志津川高校、頑張ります」という姿勢を少しでも多くの方々に知つていただくことだと思っています。御校の学校だよりを通じ、加治木高校のみなさんに志津川高校のことを伝えいただき、何かを感じていただければうれしく思います。」

もし私たちが、同じような状況に立たされた時に、窮屈に陥りながらも、勇気ある行動がとれるだろうか。感謝の気持ちや奉仕の心を持ち、誰かのために尽くせるだろうか。一筋の光の中に希望を抱き、明日へと歩き続けることが出来ただろうか。加治木高校生に問い合わせみたい。やがて東日本大震災から一年が経とうとしています。ボランティアも減少し、被災地への関心も薄れつつあります。私たち何が出来るのか、そして自分にとって何が大切なのか、今一度考えることが必要なではないでしょうか。

人は、食べたものでできている。何をどのように食べるのか、もっと直率に考えた方が良いと思う。例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日いただく。そして、プラスチックと分子構造が似た、

二、自分に限界を作らないで欲しい。
ある目標を達成しようとするとき、「試練」や「苦難」はつきものです。その時に、どのように対処するか、ということが人生でいかに大切なることが、・・・、諦めた瞬間、自分に「限界」が作られます。苦難に直面した時、打ち負かされ、夢を諦め、妥協をしてしまうのか、それとも苦労を苦労と思わず、ひたむきに努力を重ねることができるのか、ここに人間的に成長できるかの分岐点があると思います。

食生活について考える

養護教諭 松下直子

先日行われた健康福祉学の「食育」の中で講師の千葉しのぶ先生が、ある有名大学の学生の一日の食事内容を調査した結果を紹介していた。それは、朝はカロリーメイト、昼はハンバーガーとジュース、夜はカツフライメンとおにぎり等、ほとんどコンビニエンスストアで購入した物で済ませる人が多いという事実であった。もし料理に全く関心がなく空腹を渦たずるものなら何でも良いと考えているのなら、学業やアルバイトを優先して、食事は早く簡単に食べられるもので済ませるのもかもしれない。しかし、これが今まで栄養バランスのとれた食生活で育つた人が、親元を離れた途端にここまで偏った食事で満足できるのだろうか。

生徒保健委員会が昨年度「自立のために自身の健康を考える」というテーマでアンケート調査を行つた。その中で「食事や食事等に必要な栄養バランスに気をつけていますか」という質問に、「はい」と回答したのは、男子は49・3%、女子は66・7%であった。それ以外

の生徒はあまり意識せずに食べている様子が何える。また「自分一人の場合、食事作りや片付けは自分でしますか」という質問には、「はい」と回答したのが男子は64・4%、女子は76・7%だった。

今は学業と部活動で時間がとれないかもしない。それでも「高校卒業までには、ご飯・味噌汁・焼き魚・野菜炒めをさと作れるようになつてほしい。そしてそれぞれの家庭の味を離れていくつてほしい」と千葉先生が強調されていた。

私は、食べたものでできている。何をどのように食べるのか、もっと直率に考えた方が良いと思う。例えば、生命活動を維持するために必要な酵素を多く含む野菜や新鮮な果物を毎日

セントラル試験を終えて

進路指導部 川崎辰也

今年度の大学入試センター試験は、一月十四日、十五日に実施されました。志願者は昨年よりも三千五百人程少ない約五十五万五千人で、本校は鹿児島大学法文学部で、三百六名の生徒が受験しました。当日は厳しい寒さの中、特に二日目は最高気温が九度、冷たい雨が降りしきる

中での受験でしたが、本校生は二日間とも体調不良を訴える者もおらず、元気に受験してくれました。今回は今年度から始まつた受験教科事前登録制で、実施方式が大きく変わりました。その影響からか地図と公民で、問題冊子の配付において流れやミスが相次ぎ、百を超える会場で約七千五百人の受験生に影響がありました。また、氣仙沼高校試験場ではI-Cブレイヤーが届かず、受験生約二百人が二時間遅れで受験をすることになりました。

そこで、受験生約二百人が二時間遅れで受験を

終え、特にあとを受け難く、二年生に対して改めて強く感じたことを述べたいと思いま

す。一日をよりよくほぼ全員が進学を希望している本校生にとってセントラル試験は重要な通過点です。全ての内容が教科書レベルで出題されるセントラル試験は日々の授業を完全に自分のものにできれば目標は達成できます。予習・授業・復習の流れを自分のものにしていますか。今の学習状況は質量とも満足できるものになっていますか。まだ余力はあるはずです。再度自分の生活を見つめ直し、一日一日を充実させ、もっともつと自分を高める努力を重ねて欲しいと思います。

三、最後は「タフ」な心と体



セントラル試験直前

平成二十三年度一日遠行

体育科五 領 壮 太



創立百十四周年を迎える加治木高校で、伝統行事になつてある、第十五回「一日遠行」が十一月十八日金曜日に開催された。

今年の遠行は、工事や崖崩れの影響でスタート方法やコースを変更して実施。そのため距離が二十七kmから二十四kmと短くなつた。毎年恒例のPTAの方々による休憩所やチェックポイントでの飲み物等のサービスも今年も協力していただけた。また、前日には一日かけてコースのチエックと添付等の準備を行うと共に、事前説明会を実施し、コースの説明や前年との変更点、歩行時の注意点やチェックの受け方等について入念に説明をおこなつた。

そして、迎えた「一日遠行」当日、今にも泣き出しそうな空だが、風もなく、気温も暑くも寒くもないという運行にはベストなコンディションとなつた。

グラウンドが改修工事のため、体育館で開会式を行い、「黒木節」を開き志氣を高めた生徒達は、九時〇〇分に二年一組からクラス毎に一分間隔で体育館をスタート。第三棟を回り、西門を出て松城小横を通り例年のコースに出で竹山ダムを目指す。途中、高速道路の側道が工事中で現場の方の指示に従いながら注意深く通過、龍門司坂に向かう。しかし、またしても階段工事のため通行止め。横の県道から「さえぎりの森」へのコースを通り、最初の給水所である「旧

JIAあいら辺川支所」で水分を補給し、上越原バス停から長い直線道路の田園風景を楽しみながら進み、突っ張った足をかばいながら竹山ダムにたどり着く。例年ならば約三組のダム湖周遊コースを回つてチェックポイントだが、ここも崖崩れのため通れずチェックポイントに直行し折り返しのコースとなつた。そのため、中にはなんが得した気分になつた人も多かつたので、この竹山ダムの給水所では、多くの保護者の方々の温かい励ましや、お茶、チョコレート、ケーキ菓子等のもてなしを受け疲労も回復。弁当のおにぎりなどを食べ、栄養補給をする者も多かつた。

そして、復路へのスタート。この頃になると

雨が降り出すが、みな気にすることもなく、すれ違い際に知り合いや先輩後輩同士で声を掛け合ひ、つりそな足にも気合いを入れて「さえぎりの森」付近の長い坂を登り、第二チェックポイントに到着。最後のおいしい麦茶をいただいた後、残り三kmのゴールを目指す。そして午後三時三〇分過ぎには、参加者五七一名（男子二七〇名、女子三〇二名）のうちリタイヤ一名を除く五七〇名が学校のゴールへ到着した。

このように、工事などの影響で数ヶ所のコース変更を余儀なくされた「一日遠行」は、コースの中の名所である「龍門司坂」が通行できず残念な思いをした。しかし「強調な体力と不屈の精神を教える、友情を深め、高校時代のよき思い出をつくる」という目的は達成できた。

ここに、地域の方々の協力や、天候の悪い中、最後まで立哨指導等をしていただいた先生方、PTA役員の皆様に対し、お礼を申し上げ「一日遠行」の報告といたします。

感謝の一言

難産の修学旅行を終えて
二学年主任 伊 喜 博 之



二〇一一年三月一日 東北地方に大地震！午後三時頃職員室でどなたかつぶやいた。テレビのテロップでは震度七以上。津波警報発令。恐ろしい光景でテレビにくぎ付け。報道される地震の被害はますます大きくなるばかり。その中に、福島の原発事故が報道されました。その瞬間、今年の修学旅行は取り止めということが、私の脳裏をかすめました。

四月になってから修学旅行の話題は意識的に避けっていました。実際は、複数の旅行会社に県内・九州内の動向を調査していたたいていました。変更した学校もありましたが、ほとんどが様子見という状況でした。毎日インターネットと新聞で、福島・長野・東京・千葉の回りきと放射線量の観測値の記録が私の日記になりました。性急な判断をしない為にも、客観的データが必要でした。今回は行く



怪我では献身的に治療していただいた看護師さん。真夜中にも拘らず、山の中から遠い病院まで車を運転していただいたホテルの社長さん。誕生日を修学旅行中に迎えた生徒たちのサプライズの誕生会など。いかにこの世の中は、人の善意に支えられているかが分かったことでしょう。最終日に、ディズニーランド・浅草・お台場では十分とは言えないでも、色々な体験が出来たようです。修学旅行を通じて、人間的に大きく伸びてくれればこの行事は大成功と言えます。これから、生徒達は進路実現に向けて全力投球してください。

れるものと確信しています。私の学年主任という仕事も、先生方・生徒達の協力なしでは、何も出来ないということを改めて感じました。

皆さんに感謝の気持ちで一杯です。



“ありがとう 加治木高校”

3月1日、第64回卒業生が、羽ばたきます。
4名の保護者の方に、加治木高校での思い出や
卒業による気持ちをあ書きいただきました。

題字：朱九貴之先生(芸術科 書道)

卒業



平成23年度
全国高等学校
総合体育大会
弓道競技
(H23.8.4~7)

感恩戴徳

三年P 上村 博文

東日本大震災から五ヶ月、被災地である岩手県盛岡市で開催されたインターハイ。決勝戦を終え、退場する加治木高校弓道部の選手の背中に満員の会場から惜しみない拍手が送られ、いつまでも鳴り止まなかつた。

父ちゃんをインハイに連れて行つて」私の一言から始まつた娘の高校生活。最後の夏に最高のプレゼントと感動を貰つた。

私は弓道部では何処にでも現れる父親として有名だったと聞く。九州各県、沖縄県、山口県、そして岩手県まで応援に行く事が出来たのも、弓道部皆のお陰だと思つてゐる。

撮り溜めた写真を見るに喜んでいた事が鮮明に思い出される。記録と記憶に残る一枚一枚の写真は私の大切な宝物である。卒業の今、新たな矢が射られた事を願う。

地でもある岩手県盛岡市で開催されたインターハイ。決勝戦を終え、退場する加治木高校弓道部の選手の背中に満員の会場から惜しみない拍手が送られ、いつまでも鳴り止まなかつた。

父ちゃんをインハイに連れて行つて」私の一言から始まつた娘の高校生活。最後の夏に最高のプレゼントと感動を貰つた。

私は弓道部では何処にでも現れる父親として有名だったと聞く。九州各県、沖縄県、山口県、そして岩手県まで応援に行く事が出来たのも、弓道部皆のお陰だと思つてゐる。

撮り溜めた写真を見るに喜んでいた事が鮮明に思い出される。記録と記憶に残る一枚一枚の写真は私の大切な宝物である。卒業の今、新たな矢が射られた事を願う。

おかげさまで

三年P 芝 幸宏

息子が入学してからの三年間はとても早いものでした。保護者として、そして母校の卒業生としての私にとりましてもとてもわくわくさせてくれた三年間でした。

剣道部で信頼できる顧問の先生方や仲間に出会い、母の手抜き弁当を「ありがとう」と言って毎日楽しそうに学校に行く姿は、心の成長を感じさせてくれました。

思えば剣道部の長崎合宿の為に、マイクロバスの運転手を担当し、九時間にわたる長い道のりを顧問の富田先生や保護者のみんなとトイレを我慢しながら走行した大渋滞の高速公路がいい思い出となりました。

この地に立てた事は、ご指導の先生方、高跳び道具の心配をしてくださった母の会の方、その環境を作つてくださった体育科の先生方、陸上部の仲間とクラスの皆さんのおかげです。そして、校長先生、教頭先生方、いつも声掛けしてくださいました。ありがとうございました。

「文武両道」を目指しながらも、「武」が強かつたかもしれません。が、加治木高校で身に付けた力は、決して他に負けていないと、先に卒業した長女で実感しました。その後女も教育実習で先生方にお世話になりました。

感謝の気持ちで

三年P 松山 成子

東北新幹線から見る街々は、震災の影響を抱えながらも、陸上競技のある岩手県北上市での車中のラジオ放送からは「全国の高校生たちを明るく元気に迎えましょう」。と聴こえました。なんと有難いことだつたでしょう。

右は、高一の時息子が一番好きだった、と言っていた漢詩の一節です。厳寒の朝、互いに励まし合いながら学び合う私塾生達の姿が目に浮かび、息子の思いに触れた気がして嬉しかつたのを覚えています。これからはや

君汲川流我拾薪

三年P 森川 亮子

三年の大楠の下の三年全員の集合写真を前に、溢れる思いをあれやこれや書いていると「論は絞らない」と何を伝えたいかわからない」と息子に指摘される始末でした。

今はただ、息子が友情を育んだ素敵なクラスメート達、暑い日も寒い日も共に励んだ部活の仲間達、豊かな言葉の世界、広い知の世界、深い心の世界へ導いて下さった先生方へ心より感謝申し上げたいと思います。

我が家の三人の子ども達を九年間



3年間、学年部長としてPTA
にも貢献してくださいました

剣道部の仲間 & 顧問の富田耕作
先生(左)・新留克郎先生(右)



陸上部女子のみんなと
2011 熱戦再来 北東北総体
陸上競技(H23.8.3~7)出場
自己記録更新!!
(女子走高跳160cm)

PTA活動を通して素敵な方々に出



会えた私にとって本当に楽しい学

舍でした。大楠の木の下に立つと子

ども達のさんざめきが聞こえてきま

す。子ども達を優しく見守ってくれ

た大楠にも感謝しつつ卒業します。

ありがとうございました。

JOBにもご協力ご参加くださいました

ありがとうございました。

出会いを大切に

事務長 下 國 勝 一

三学年主任 右 田 郁 雄

卒業おめでとうございます。卒業する三年生の皆さんは、加治木高校で二年間のおつきあいでしたが、私も定年で皆さんと一緒に加治木高校を卒業します。

私は、加治木高校に赴任して、生徒の皆さんが文化祭・体育祭・一日遠行等のいろいろな行事に積極的に取り組んでいた姿に感動させられました。

体育祭に関しては、練習を受けながら、真夏の暑い中の応援団の練習にも孫も一生懸命で、またバナエル作成にも孫が一致団結して取り組んでいるのに頭の下がる思いでした。

加治木は、私にとって縁の深い町であります。三十六年前に加治木合併に三年間勤務し、いろいろな方にお世話になりました。また、公私ともにご指導をいただきました。

その後、職場を十一ヶ所異動し、最後の職場として加治木高校に赴任してきました。

これまでの職場で私を支えてきたのは、何よりも異動により、多くの人々に出会い、現在も声をかけてもらえる人たちがいることだと思います。

いよいよ卒業する三年生の皆さんは、今後は加治木高校を離れ、新たな人と出会うことになります。大橋の下で一緒に写真を撮った仲間と同様に、これから数多くの出会いを大切にし、人生に生きて欲しいと思います。

最後に、今年は食棟棟改修工事・グランド整備・東西生徒昇降口耐震工事が入り、生徒の皆さんは不自由な思いをさせたと思います。皆さんの協力で、より良い高校生活環境作りの手助けができることに感謝しています。

自分らしく輝こう

永野さやか

川に小舟を出す
岸を離れると

もう一つの時間

瀬音が時を刻み

風が雨の訪れを告げていく

急な流れの傍らにひろがる

ゆるやかな水のおび

水面に映る空

通りすがりいく魚たちの群れ

ぱつりぱつりと雨が落ちてきた

空からの伝言(ことづけ)

川面にいくつもの波紋がひろがる

その中を一すじの帆を描きながら

小舟をすすめる

川にあるもう一つの時間

流れる水たちは

この川の源流を知っている

さて、皆さんは通い慣れた道から

遠ざかっていきますね。この行き止まりの廊下をもう歩くこともなく、四角な窓の外の世界に出ていくことになります。皆さんの今の心境はそれぞれに一様ではないと思いますが、周囲の声よりも内なる声に耳を傾けることが今後多くなっていくことは確かでしょう。

詩人の谷川俊太郎が高校時代、皆さんと同じく私は共にいました。それは、どうしようもない自分を支えようとするためのものでした。今新聞を手にしている皆さんの心には、卒業への喜びと別れへの悲しみ、新しい生活への不安と期待など様々な思いで溢れています。

加治木高校での思い出を大切にしながら、それぞれの道で、自分らしく輝き続けてください。夢に向かって頑張る皆さんを心から応援しています。ファイト!

困ったように笑いながら
ずっと迷ってる人がいる
誰も気づかないような場所で
咲いていた花のように
世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命になればいい
小さい花や大きな花
一つとして同じものはないから
N.O. 1にならなくていい
もともと特別な On - y one
♪世界に一つだけの花♪

SMAP



3年生激励会

体育部門

マハンドボール部

県新人大会 男子3位 女子2回戦

南九州大会 男子3位 女子2回戦

▼剣道部

県新人大会 男子2回戦

▼弓道部

選抜大会 個人準優勝 村山季音

県連大会 男子団体4位

▼バドミントン部

県新人大会 男子3位 女子2回戦

県連大会 個人準優勝 村山季音

▼テニス部

県新人大会 個人準優勝 村山季音

県連大会 個人3位 村山季音

▼ラグビーブルーバルーンズ

県新人大会 女子2回戦

県連大会 女子3位 村山季音

▼バドミントン部

県新人大会 男子1回戦 女子1回戦

県連大会 個人5位 真邊賢了

▼バドミントン部

県新人大会 男子1回戦 女子1回戦

県連大会 個人3位 村山季音

▼バドミントン部

県新人大会 男子3位 女子2回戦

県連大会 個人3位 村山季音

▼バドミントン部

県新人大会 男子3位 女子2回戦

県連大会 個人3位 村山季音

▼バドミントン部

県新人大会 男子3位 女子2回戦

県連大会 個人3位 村山季音

文化部門

▼美術部

県新人大会 優秀賞 散文 尾形洋子・谷口仁実

県連大会 優秀賞 文芸専門色認定奨励賞

県連大会 優秀賞 散文 尾形洋子・谷口仁実

姶良伊佐地区秋季地区大会

マハンドボール部 男子2位 女子3位

▽ラグビー部 4位

▽サッカーボール部 優勝

▽バスケットボール部 男子3位 女子準優勝

▽野球部 男子個人2位 二浪良昭

▽テニス部 優勝 小原優花

▽バドミントン部 優勝 上村華代

▽サッカーボール部 優勝 萩原真由

▽バドミントン部 優勝 上園真由

▽バドミントン部 優勝 万代光輔

▽バドミントン部 優勝 萩原萬代・大川

▽バドミントン部 優勝 岩井流大

▽女子シングルス 2位 上園真由

▽女子ダブルス 優勝 上園真由

▽バドミントン部 優勝 田中千尋

始良伊佐地区秋季地区大会